

【函館地区】(つくしの子保育園 青い鳥保育園)

函館市内と近郊の保育園5園(青い鳥保育園、大中山保育園、神山保育園、つくしの子保育園、人見保育園)で、2園と3園の2グループに分かれ、年長児になるとリズム交流をしています。そして、その日のうちに各園の年長担任、園長で再び集まり、交流し学びを深めています。

リズム交流はここ数年、コロナの影響で直前に中止になったり、来られなくなる園もあつたりしましたが、今年度は、5月6月と順調に交流を重ねることができました。7月にはつくしの子保育園のホールに5園がそろう75名の子どもたちでリズム、集団遊びを行いました。リズムをし、たくさん遊んで解放された75名の子どもたちのうたごえがホールに勢い良く響き「あーこうだったよね!」と、感じた場面となりました。

今後も2グループに分かれてのリズム交流を毎月行い、1月には5園合同のリズム交流、10月と2月にはまた5園合同のリズム合宿を2泊3日で行う予定です。

【札幌・小樽地区】

〈3園リズム交流〉

今年5月にコロナが5類に移行されたことで交流保育への制限も緩和され、6月8日に3園リズム交流を行うことができました。

年長児にとって交流をすることは初めての経験から、自分と同じ年長が来ることへの期待感が喜びの姿となり、表情や行動にも見られていました。3園一緒に雑巾がけをすることから始まりリズムに向いましたが、いつもと違う雰囲気や初めて出会った友だちとリズムをすることで、緊張感を感じている様子がありました。たくさん歌をつたったり、基本リズムから各園でやっている集団リズムを初めての友だちと一緒にすることで、楽しさを感じていました。子どもたちにとっては、リズムや遊びの他に、恥ずかしいけど声をかけてみるという経験が良い刺激となり、今後の友だち関係の広がりにもつながることを感じました。

(救世軍菊水町保育園)

北海道も今年は猛暑となり、連日のプール遊びの他に、滝野での川遊びを楽しみました。自然豊かな滝野の森の中を散策し、たくさん汗をかいて遊んだあとに川へ入り、水の冷たさを肌を通して感じました。

園の行事でもある親子夏まつりを保育の中で行ない、年長児が相談し何日もかけてお神輿を作り、お祭りのオープニングを飾り、夏祭りを盛り上げました。また、小さい子たちが楽しく遊べるコーナーを考え準備し、おみやげに手作りのメダルをプレゼントしていました。みんなのために自分たちが頑張ることの喜びを経験することができた行事となりました。これからは秋の運動会に向けて仲間と一緒にいろんなことに取り組んでいこうと思います。

(風の子保育園)

7月14日(金)かもめ保育園との海かもめ交流を行いました。2度目の交流ということもあり、お互い会えたことが嬉しい様子。砂浜では2人組リズム遊びを中心におこない体が温まると海の中へ。

「ウニ見つけた〜」「エビ食べれるの!!」「さかなもかにもいる」とこの日は生き物が沢山獲れてまるで水族館の様でした。帰りには「また遊ぼう」と約束をする子どもたちでした。



(かもめ保育園)

○今年も海を満喫しています○

かもめ保育園は毎年、6月下旬から9月上旬まで‘海かもめ’へと活動の拠点を移します。少し歩けば目の前は海、そんな海かもめで今年も夏を過ごしています。北海道でも30℃を超える暑い日が続く、1歳児から5歳児まで毎日朝から夕方まで海に入って遊んでいます。

3～5歳児は海に入る前に準備運動も兼ねて、約30メートルの波打ち際を何往復も走りマラソン大会をしています。「30周走った～！」と自信満々の顔付きに変化します。砂浜で走るのは平地とは違い、足をあげなければならないし、足の指で砂をグッと掴まないと足に力が入らないため、かなり力を使います。海での生活が終了すると、子どもたちの体つきが変わります。体力や足腰の力が付き、ふくらはぎが出来、ポテポテとしていた身体も引き締まり、たくましさが増しています。

海での遊ぶのは泳ぐことを想像するかと思いますが、泳ぐだけじゃない！浅瀬の日には海の中でリズムも出来ます。水の抵抗があるのでポルカをするにも足をかなりあげます。かめや両生類のようなハイハイも、水の中で出来ますよ。こうして毎日浜や海でリズムもしています。

<両生類のようなハイハイ>



<みんなで板からジャンプ>



そしてコンテナを何段も重ねて板を渡し、ジャンプ台にしたり、雲梯のようにしたりして遊んでいます。海に飛び込んだり、落ちてしまったりしても水が顔にかかることが楽しいようで、次から次へとジャンプが止まりません。年長児が数名集まり息を合わせて一斉に板からジャンプして最高記録は何人で飛び込めるのか、と挑戦しています。最後には脳室周囲白質軟化症を抱えた年長児も加わって、年長児全員の15名でジャンプに挑戦しました。15名となると「せーの」で飛びたいけれど、バラバラバラ…ポチャン…と何回も続き、なかなか息を合わせるのが難しい！どうやったらみんなで飛べるのか？と考えて、あんなゆるゆるの曲、がしゃごしょざわざわを歌い、最後の「あつまったあつまった」の節で飛んでみることにしたけれど、これもなかなか息を合わせるのが難しく、バラバラバラ…。そんなことを繰り返し遊んでいます。海が終わる頃には、みんなで息を合わせて飛ぶことが出来るでしょうか!?

<フラフープをくぐって飛び込む>



板からのジャンプでは、「イルカジャンプ」と名して、フラフープをくぐって海へ飛び込むこともしています。板とフラフープの距離は3～40センチほど離れていて、年長児は高さもつけて遊んでいます。始めはフラフープに引っかかったり、ぶつかったりしていましたが、何度も何度も挑戦。やっていくにつれて綺麗なフォームに変わっていきます。それが他の子への刺激となり、フラフープをくぐって飛び込み、綺麗に飛べる子がたくさん増えました。飛び込んだ後はそのまま泳いでいます。まるでイルカショー!?!のようです。

<海の中での逆上がり>



竹を持ってきてこんなことも。子どもたちで竹を持つ人を決めて、交代で逆上りをやっています。逆上がり中、頭は海の中に入ってしまうので、「どうやっているの？」と聞くと「回る時にぶくぶく～って息をはくのさ」と鼻に水が入らない工夫をしているようです。逆上りをしていたと思ったら、今度は竹を縦にして竹登りに変身。「これ(竹)埋めたらいいんじゃない？クルクルクル…(と言って竹をもって回りだす)」「登ったらジャンプだ！」と遊びが広がっていきます。

今年の北海道は例年になく暑い日が続く、そして岸から沖の方まで水が浅い遠浅の日も多く、海での遊びが充実しました。とにかく海で遊べるのが気持ち良く、最後の最後まで遊び切りたいと思います。

○収穫祭、縄あみ完成祝いのホッキカレー！○

海での生活が終わる9月上旬に、年長児がホッキ貝を入れたカレーを作ってみんに振る舞います。今年は畑の収穫祭（玉ねぎ、じゃがいも）と、全員が縄あみを完成させたお祝いとして作りました。玉ねぎチーム、じゃがいもチーム、人参チームと分かれて作業を開始。玉ねぎチームは玉ねぎの辛みが目に沁まないように、水中メガネを装着。こちらの光景は毎年恒例のかもめ名物!?になっているものです。じゃがいもチームには、じゃがいも農家の孫がいる！小さい芋もなんのその、スイスイと皮を剥いていきます。人参チームは昨年の年長児はイチョウ切りだったので、今年は違う切り方をしようと相談し、丸形に決めました。

チームの作業を終えた子どもたちが、ホッキ貝の下処理をしている大人のもとに集まりました。一人の子が「ホッキはその切り方じゃないよ」と口に。どうやらその子は家でホッキ貝を刺身にして食べたことがあり、その時に切るのを見たことがあるというのです。刺身としての切り方と、カレーに入れる切り方とは違うのだと、また一つ賢くなりました。よく見ているなぁと感心しました。

<水中メガネを装着して玉ねぎを切る(かもめ名物!?)>



野菜の炒め作業をしている間に雨が降ってきてしまい、「外でやるはずなのに！」と子どもも大人もどうしようと、てんやわんや。前日に浜辺に石を積んだ釜戸を作っていたのを、海かもめ園舎前に移動し、タープを張り、その下で焼き台を使って火を起こすことにしました。うちわであおぐ人、乾燥した木の枝を追加すると、火を起こすにも総力戦。疲れてきたら交代を繰り返し、火がいい具合に起きたところで焼き台に鍋を置く。グツグツ煮立ったところでカレー粉、じゃがいも、そして最後に約80個のホッキ貝をドーンと入れる！入れれば入れるほど、いい匂いが漂いホッキカレーの完成！「早く食べたい〜！」と声上がる時には雨も上がり、海を見ながら食べることが出来ました。「年長さんのカレーおいしいでしょ？」とやや強引に言っている子もいましたが、みんなが何杯もおかわりをするほど、本当に美味しいカレーになりました。

<食べる時には空は晴れ！美味しい〜！>



<力を入れて炒めるぞ！>



<みんなで火起こし>